

都市再生の全体概要図における県庁舎跡地
 目指す姿「平和と文化の国際交流拠点都市 長崎の再生」

・適切な機能分担に基づく4エリアの重点整備
 ・エリア相互間の結節強化

国内外から多くの人を呼び込み、広く回遊させることにより、長崎全体に賑わいを波及させる
 (長崎市の年間観光客数H23年:600万人 H32年:700万人)

長崎駅周辺エリア
 (陸の玄関口拠点)

国内からの来訪者を迎え入れる陸の玄関口として、集中的な都市基盤整備を行う

- 駅周辺の区画整理
- MICE施設の建設(検討中)
- 旭大橋の低床化
- 新県庁舎・防災広場の整備

県庁舎跡地の活用

- 離島航路ターミナル
- 海の玄関口拠点
- 出島の復元整備
- 水辺の森公園
- 県美術館
- 新市立病院の建設
- 国際ターミナル
- 松が枝ふ頭の拡張

- 大黒町恵美須町線の整備
- 岩原川プロムナードの整備

中央エリア
 (交流と賑わいの拠点)

業務機能を維持しつつ、公共施設の再編を核として新たな交流を生み出す

- 市庁舎跡地の活用
- 郷土資料センターの建設
- 新大工地区の再開発
- 新市庁舎の整備
- 歴史文化博物館
- 市民会館

- 市立図書館
- シンボル軸
- まちなか軸
- まちぶらプロジェクトの推進
- 銅座川プロムナードの整備
- 唐人屋敷跡の顕在化

まちなかエリア
 (歴史と賑わいの拠点)

歴史を活かした地域の魅力向上と商業の振興を図り、求心力を再生する

松が枝周辺エリア
 (海の国際玄関口拠点)

海外からのクルーズ客を迎え入れる海の玄関口として質の高い港湾環境整備を行う。

海外から

人の流れ(公共交通機関や徒歩による回遊性を向上させる)

主な歩行者動線